キャリア教育の現場から

2024年度キャリアデザイン演習受講生到達目標：将来や就活の不安を払拭してやりたいことを見つけ出し挑戦できる人になる

日本のキャリア教育はニート対策から生まれた経緯があるため、働くことを押し付け職業に就かせようとする思惑が見える

日本のキャリア教育が目指す若者の将来像

社会的・職業的自立とは、個人として社会の一員として生きていくために必要な能力や自立心を身につけること、そして社会の中で自分の役割を果たし、安定した生活を送ること

生徒はそもそも学習が将来何の役に立つのか？理解・納得できずにいる

人生の目標を持たない安定した生活を望む若者の増加

- 小学校：働くことの大切さの理解、興味・関心の幅の拡大等、社会性、自主性・自律性、関心・意欲等を養う
- 中学校：社会における自らの役割や将来の生き方、働き方等を考えさせ、目標を立てて計画的に取り組む態度を育成し、進路の選択・決定に導く
- 後期中等教育（中学校～高校）：生涯にわたる多様なキャリア形成に共通して必要な能力や態度を育成し、これを通じて勤労観・職業観等の価値観を自ら形成・確立する
- 高等教育（大学・専門学校など）：学校から社会・職業への移行を見据えて、自らの視野を広げ、進路を具体化し、それまでに育成した社会的・職業的自立に必要な能力や態度を伸長・深化させる取り組みを教育課程の内外での学習や活動を通じて充実させる

大学が抱える課題

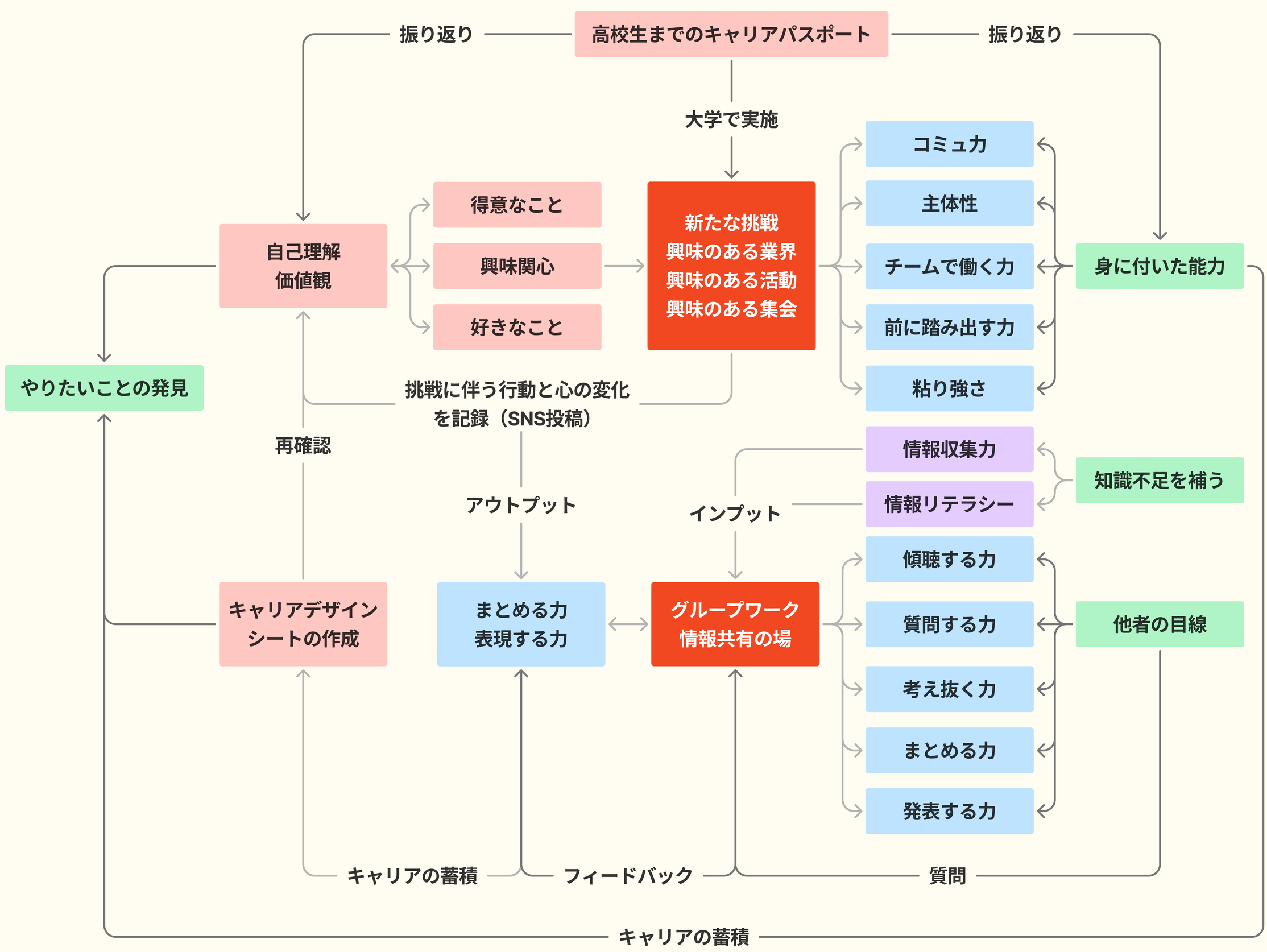
将来や就活に不安を抱えている学生は約60%（キャリアデザイン演習アンケート結果）

主観的な（学生が抱く）不安

- やりたいことが見つけられない
- どの業界に就職すべきか判断できない
- 筆記や面接に自信がない
- 社会人としてやっていく自信がない

詰め込み暗記教育の弊害が現れている（キャリアデザイン演習履修生の傾向）

客観的な（キャリア教育担当が抱く）不安

- 基礎学力（特に、文章力＝自分の意見をまとめる力が不足
- 自分の意見を表現できる力
- 自己分析と自己理解ができていない

札幌学院大学キャリアデザイン演習で取り組むこと